

# ゆきの灯り

第20号  
平成30(2018)年  
8月発行  
油木協働支援センター  
TEL 82-0701  
FAX 82-2228



## 7月の専門部会

### いちば再生事業

旧西川酒店 改修活用  
について 油木協働支援  
センターから現在の状況  
について報告

①油木高校 総合学習での  
利用 ②地域住民の居場所  
づくり ③西川化石資料館  
の整理分類

部会員からはオープン  
スペースの利用方法につ  
いて多くのアイデアが出  
ました。

### 地域子育て世帯支援事業

7月2日～6日制服譲  
渡会の受け渡しを無事終  
了することができまし  
た。14名の方々が受け取  
りをされました。

センターに来られた方  
はもう少し多く、今回収  
集出来なかった中学生の  
制服はないか尋ねられた  
方が数名おられました。

譲渡会を終えて  
の気づきは今後部  
会で共有し、協議  
していく予定です。

地域の皆さまに  
協力ありがとうございました。



油木コミュニティセンター  
1階の譲渡会場所

### わくわく農業

#### チャレンジャー事業

参加者8名の方からそれ  
ぞれの農業経験を踏まえ  
た上での意見を出してもら  
いました。

ナマズについては、稚魚作  
りの安定供給が不可欠で、油  
木高校の場合、今年度はつま  
くいかかったとの事です。

辛うじてごめん用の唐辛子  
については、豪雨により部会  
員の畑に植え付けられてい  
た唐辛子300本が流失したと  
の事でした。



わくわく農業チャ  
レンジャー部会の  
ようす

### 有機栽培や、6次加工

などで付加価値をつけ、  
販売をしていけるような  
しくみの構築が必要だと  
いう意見も出ました。

### 体験交流事業

7月25日、8月4日の  
両日部会を開催しまし  
た。油木地区での活性化  
を進めるために、一緒に  
未来を見つければプロジ  
ェクトin油木(案)と  
称して、各自自治振興会等  
で行われている体験交流  
事業を応援することにな  
りました。

正式な事業スタートは  
来年度からの予定です  
が、実証実験として今年  
度の3つのイベントを行  
います。高原部会長を中  
心に部会がとも元気で  
す。ご期待ください。

## 協働のまちづくり事業 審査会

5月～7月の決定分は以下の通りです。

### ◎いちば自治振興会

事業名：誰もが集える

オープンスペースの開設

助成金額 380,000円

### ◎2018ゆきふるさとまつり実行委員会

事業名：2018 ゆきふるさとまつり

助成金額 1,080,000円

## ひろしま里山ウェーブ事業ワークショップ 参加者募集

地域貢献に高い意欲を持つ首都圏の  
若者(大学生)が10月26日～28  
日油木にやってきます。

日程中、油木協働支援センターにお  
いてワークショップを開催します。油  
木の思いや地域課題を共有し、双方向  
にとって実のあるワークショップにな  
るように、現在内容等を計画中です。

そこで参加者を募集します。

日時 10月28日(日)

午前10時～11時45分(予定)

場所 油木コミュニティセンター

詳しい事は申し込みされた方にご連絡い  
たします。定員になり次第締め切ります。



## 油木高校1年生の総合学習

油木高校1年生の総合的な学習  
において、今年度 油木協働支援セ  
ンターが協力して行うことになり  
ました。

7月13日(金)1年B組32名  
と担当の先生方が旧西川酒店の見  
学に来られました。その後センター  
へ移動し、センターの取り組みや油  
木の現状を学ばれました。

里山ウェーブ(左記参照)で油木  
を訪れる都会の大学生との交流も  
含め、地元の高校生として市場の中  
心街を元気づけるための学習・活動  
を行っていくとの事です。



## 油木協働支援センターからのメッセージ

このたびの豪雨により被害を受けられた方へ、心からお見舞い申し  
上げます。今回の豪雨では、町内でも大きな爪痕を残しました。

油木地区では、人的な被害はなかったように聞きますが、各所で道  
路が寸断し、かなりの数の家屋や田畑などの被害があったようです。

豪雨の中、警戒や作業にあたっていただいた住民の皆さまに心より  
お礼申し上げます。これからも暑さ厳しい日々が続きます。どうぞご自  
愛下さいませよう、お祈り申し上げます。 センター長 赤木 健一

### 小野避難所開設及び

#### 災害対策本部開設 顛末記

7月6日(金)午後8時53分

自治振興会長が避難指示を受け

て、避難所を小野社会教育施設に開

設した。副会長と事務局長を召集。

ペーシング放送で避難所開設を小

野住民に周知。

7月6日(金)午後9時

副会長・事務局長到着。

小野自主防災会災害対策本部を開

設(本部長:会長、副本部長:副会

長、事務局長:事務局長)

本部長から後谷班は既に避難済で

あり、林道大古瀬線は土砂の流出が

あり、通行不能との報告。

避難者3名(町対策本部に連絡)

テレビを避難者の情報提供用に接

続。事務局長が住民名簿を作成。

7月6日(金)午後10時頃

避難者は備え付けの寝具で仮眠。

7月6日(金)午後12時頃

雨の小気状態が続き、スマホ等の

情報でも強い雨が予想されないた

め、本部長も寝袋で仮眠。

7月7日(土)午前6時頃

地元消防団員より町道小野西山線

で大規模な崩壊が発生し通行不能と

の連絡。その旨をペーシング放送

消防団員より町道門原線が陥没の

情報。団員と地域振興部長で運動会

用コーン等で通行止め処置。

消防団員が町道小野東城線と小野

中郷から備中町西山までの道路状況

を調査。どちらも倒木があり、通行

不能との連絡。この時点で小野の孤

立が判明したため、町対策本部に連

絡し、建設課長にルート確保を

依頼。

中郷前班長より、班の異常なしの

状況報告。

7月7日(土)午前8時頃

避難者 帰宅

7月7日(土)午前9時頃

大古瀬線の土砂が撤去。通行可能

の連絡。その旨をペーシング放送。

7月7日(土)午前10時頃

道路状況で出席できない後谷班長

を除き、班長を召集。昨夜からの避

難所や周辺の道路状況を伝えること

も、班長から各班の住民の安全確

認、被害状況の報告を受ける。

7月7日(土)午後2時

小野自主防災会会長が避難所閉鎖を

宣言。小野自主防災会災害対策本部

を解散。

### 《住民の声》

役員の迅速な対応と情報伝達  
地域住民や消防団員の自発的な  
活躍、建設業者の迅速な復旧作業  
など、多くの利他的な行動によっ  
て被害が最小限に済みました。地  
域住民が必要以上に不安になら  
ず、この災害に対処できたと思  
います。

小野の底力に感動しました。



見る来る住む  
Miraijyu  
交流会を行いました



中武部会長 お手製のステキな看板でお出迎え

大人の教室

7月20日(金)にパソコン教室を開催しました。災害のために、全6回のうち1回開催できませんでした。講師の小笠原平さんのおかげで無事終了することができました。初めての教室で職員も不慣れで悪戦苦闘した部分もありましたが、次回に生かしていきたいと思えます。

頑張りました！パソコン教室



ゆきの夏祭り(7月28日)が行われている中、いちば自治振興会事務所で交流会を開催しました。まちづくり事業助成金を利用して設置された流し台も初お目見え。世代や性別を超えて、交流をすることは次のsomething new(何か新しいもの)を見つけたための第1歩だと思いました。



いちば自治振興会事務所で交流会の様子

My手ぬぐいと参加者の皆さん



7月24日(火)の第1回手芸倶楽部、講師は若林佐都子さん。今回はオリジナルの手ぬぐいを作りました。参加者の皆さんは「手描きは難しいわ」とつぶやかれながら、夢中で夏の花や金魚などを描かれました。



ゆきキッズクラブ

7月14日(土)に第1回目のお茶教室を女性会の皆さんのご協力により開催しました。キッズが習うのは、盆点前というお点前。ふくさの使い方などみんな一生懸命習いました。小田緑さんが、七夕にちなみにお菓子やお茶碗を用意してくださいました。



甘いお菓子とにかい抹茶 みんな大好き!

7月23日(月)に陶芸クラブの皆さんのご指導のもと陶芸教室をしました。1・2年生は本物の葉っぱを使ってお皿を作り、その他の学年はひも状にのびた粘土で、湯呑を作りしました。どちらも楽しそうに作りしました。



粘土をコネコネ

7月28日(土)に英語劇教室(第2回)を行いました。台本を使って自分のパートを大きな声で練習しました。練習後は夏休みの宿題タイム。涼しい部屋で学習はスムーズに進みました。



カーテンコールの練習中

参加者募集  
手芸倶楽部  
内容 ちりめんのコースター  
とき 9月18日(火) 午後1時~4時まで  
場所 油木コミュニティセンター  
材料費実費必要です

自治振興会より

南ゆき自治振興会で

は、7月16日(日)に第9回目となる南ゆき納涼祭を開催しました。納涼祭では、神石牛の焼肉、うどん、焼きそば、フランクフルト、カキ氷等、南ゆきの若者が中心となり提供しました。当日は約50名の方が来場され、最後はビンゴゲーム



ームで盛り上がりました。みなさん笑って、飲んで楽しいひと時を過ごされました。

大人の教室

茶道教室	4日(火)
ネパール料理教室	11日(火)
手芸倶楽部	18日(火)
パン作り教室	25日(火)

9月のゆきなび

(日程は予告なく変更することがあります)

ゆきキッズクラブ

料理教室	1日(土)
英語劇教室	22日(土)
スカッシュレッスン	23日(日)



釣りの道楽 その一  
安田自治振興会 会長 矢田貝光男



私は安田山形後の、一八〇度見渡しても山しか目に写らないロケーションの中に生まれ、幼稚園に行くでもなく、兄妹のみで遊んだり、親の仕事の邪魔をして、叱られて、何度となく罰を食らったりしながら大きくなりました。わたしが釣りを始めたのは、五才の頃で、誰に教えてもらった訳でもないのですが、釣り道具を作る様になりました。道具を作ると言ってもチヤチヤな物で、釣り糸は普通の針金をペンチで曲げたもの。糸をくくるところは金槌で叩いてへちやがして、作ったシンプルなもの。釣りに糸にいたっては母が使っていた裁縫用の木綿糸。ウキにはカヤの茎。オモリには板鉛、時には石ころ。竿

今回はここまで。次回は、川・池・海釣り等について書きます。

はそこら辺にあるごく普通の竹。それらを合わせてやっと完成。道具に不足なし、ピクとエサのミミズを持っていざ釣りにいくぞ・・・

初釣りは宿田から入谷へ流れる小さな溝川に「泥バエ(アブラハヤ)」をねらうことにしたのですが、現場に着いたらなんと、まあ、足元は非常にわるく、竿を振れないくらい小枝がありました。何とか釣り場を見つけてまず一投・・・数分後アタリが有り一匹ゲットすることができました。この一匹が私の人生初の釣果となり、とても感動したので今でも思い出します。

神石高原町

続・残しておきたいおふくろの味

神石協働支援センターいきいきふれあい教室で、次世代に残していく取り組みとして発刊した伝統料理本「残しておきたいおふくろの味」の第2弾です。伝えていきたい行事や道具、そして四季折々の食材の特徴を生かした料理約140点のレシピなどを掲載。分かりやすい解説付きです。購入を希望される方は、油木協働支援センターまでご連絡ください。1冊1000円(数量に限りあり)

